

実践研修(現地検討)の概要

近畿中国ブロック

講義等名	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業				
研修場所	新見市	実施日	10月29日(火) ～31日(木)	該当する 大目標	森林を科学的に評価する能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の人工林について、目的を再確認・再設定し、その目的を達成するために最適な目標林型を導き出す能力の習得。 ・ 天然力を活用した森林づくりに関する知見及び意識の向上。 					
【本研修の必要性】					
<p>森林の管理を正しく進め、適切な施業技術を適用するためには、森林の現況やそこで発揮が求められる機能(木材生産、生物多様性の保全など)に対応した森林の将来像を描き、森林施業を進めていくことが重要であり、森林総合監理士には、そのような将来像を描く力が求められている。</p> <p>人工林は、多くの場合、木材生産を目的として造成され、現存する人工林の多くは、短伐期施業による柱材生産を生産目標としてきた。しかしながら、木材需要動向の変化や森林の持つ多面的な機能への期待の高まりなどを受け、目的を再確認(場合によっては再設定)し、その目的を達成するために最適な目標林型を明確する必要性が生じている。既存の人工林で生産目標を再設定する際には、地位や林木の形状からみて、達成可能なものでなければならない。</p> <p>平成28年5月に策定された「森林・林業基本計画」では、木材等生産機能の発揮が特に期待される育成単層林を整備するなど森林資源の循環利用を図るとともに、公益的機能の一層の発揮を図るため自然条件等を踏まえつつ育成複層林への誘導を推進するなど、多様で健全な森林へ誘導するとされている。</p> <p>また、今年度から運用が開始された森林経営管理制度では、森林所有者自らが森林の経営管理を実行できない場合に、市町村が森林の経営管理の委託等を受け、そのうち自然条件が悪く再委託ができない等の森林は市町村が管理を実施することとなる。その際には、公益的機能を発揮しつつ、管理コストが小さくなるよう、針広混交の育成複層林等へと誘導する必要がある。森林総合監理士には、この市町村による公的管理の取組への技術的支援が求められている。</p>					
【講義】					
<p>① 今後の森林づくりの考え方について【内部講師:計画課 流域管理指導官】今後の森林づくりに関する政府方針</p> <p>② 多様な森林づくりの構想について【外部講師:森林総研 植物生態研究領域 チーム長(造林技術担当)】目標林型や地位について</p>					
【現地検討】					
<p>① 一斉人工造林地における今後の森林施業 45haの一斉人工造林地をフィールドとして、図面、衛星画像、森林調査簿等を用いて机上調査するとともに、地位等の森林の状況を現地調査</p> <p>② 天然力を活用した森林づくり 天然生広葉樹を活用して針広混交林の造成を行っている林分を調査</p>					
【グループ演習】					
<p>班ごとに、45haの一斉人工造林地をフィールドとして、現地検討の結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の森林施業」をテーマに、以下の手順で検討し、発表をとりまとめる。</p> <p>①森林の現況(地位、森林被害状況等)と生産活動の可能性(路網、効率的な作業システム導入の可否等)の2つの視点から木材生産機能を評価するとともに、生物多様性などの他の公益的機能の発揮が重視される区域を検討。</p> <p>②①の結果から、区域と区域毎の目的を設定し、それぞれの目的を達成するために最適な目標林型(木材生産を目的とする場合は、伐期齢、伐期における主林木の胸高直径と本数密度。それ以外を目的とする場合には、混交林等)を検討。</p> <p>③目標林型に導くための森林施業について検討するとともに、近い将来更新を行うことを想定した場合には更新方法等を検討。</p> <p>各班から検討結果の発表を行ったのち、全員でディスカッションすることにより、技術的ポイント等を共有する。</p>					
【事前課題】					
【外部研修講師】					
奥田 史郎((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 植物生態研究領域 チーム長(造林技術担当))					